

医療・介護労働への正当な評価を実現し、

安全でゆきとどいた医療・介護の保障を求める国会請願署名

請願趣旨

高齢社会を迎え、医療・介護・社会保障の充実は、国民と医療・介護労働者の切実な願いです。

しかし、入院日数の短縮や医療・介護内容の高度化などによって、現場はかつてなく大変な労働実態になっています。特に看護職は疲れ果てており、3人に2人が辞めたいと思っているほどです。人手不足のもとで、医療事故の続発に象徴されるように、患者・利用者のいのちと安全も脅かされています。いのちと安全をまもる仕事でありながら、医療・介護労働者の賃金は、他の産業に働く労働者よりさらに低くなっています。

安全でゆきとどいた医療・介護を実現するためにも、医師や看護師をはじめ医療・介護労働者を抜本的に増やすことが必要です。いのちを守る仕事にふさわしい賃金に改善することが求められています。

社会保障費の伸びを抑制しようと、食費や室料や風邪薬などの保険外しやいわゆる「混合診療」の解禁など、公的保険の範囲を縮

小しようという動きが強まっています。この間の改悪によって、患者・国民の負担はすでに限界に達しており、これ以上の負担増は許されません。

欧米諸国に比べ、日本の社会保障への国の負担は低くなっています。社会保障に対する国庫負担割合を引き上げて、すべての国民に安全でゆきとどいた医療・介護を保障することこそ必要です。



いのちを守る仕事にふさわしい診療報酬・介護報酬への改善を

安全でゆきとどいた 医療・介護はみんなのねがい

参議院議長 殿
衆議院議長 殿

年 月 日

請願項目

- 1、安全でゆきとどいた医療・介護を保障するため、配置基準を引き上げ、医師・看護師など医療・介護労働者を大幅にふやすこと
- 2、いのちと安全をまもる医療・介護労働者の専門性と仕事内容を正當に評価し、他産業労働者より低い賃金実態を改善すること
- 3、患者・利用者のいのちと安全を守るため、必要な安全対策のコストを保障すること
- 4、食費や部屋代の自己負担化やいわゆる「混合診療」の解禁など、患者・国民負担を引き上げず、公的保険ですべての国民に必要な医療・介護を保障すること
- 5、在宅や介護・福祉施設の基盤整備をすすめ、病院追い出しや特養待機者をなくすとともに、誰もが必要な医療・介護を受けられる体制を確保すること



| 氏 名 | 住 所 |
|-----|-----|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

取扱団体